

ナゴヤダルマガエル *Pelophylax porosus brevipodus* (Ito)

【選定理由】

愛知県ではまだ平野部の水田において確認できる地点が多いが、住宅建設や開発によって、生息に適した水田が都市近郊部で急速に消滅し、以前に比べると生息地点は減少している。また、関西以西の本種の壊滅的な減少状況を考えると、愛知県の個体群も急速な減少に転じる可能性が懸念され、評価を絶滅危惧Ⅱ類と評価された。

【形態】

体長は雄で 35～60mm、雌で 40～70 mm 程度。トノサマガエルよりずんぐりした体型である。両種間の大きな違いは、後肢の長さであり、本種の脛長が雌雄とも体長の 43%程度であるが、トノサマガエルは 48%程度である。体表面の黒褐色の斑紋は孤立するが変異が多い。一般的には背中線を持たない種とされるが、愛知県産では 1/3 程度の個体に背中線が見られる。他地域で識別形質とされる腹面の網目状斑紋は愛知県産ではあまり顕著ではない。

【分布の概要】

日本固有種。東海から近畿、中国地方に分布する。過去には四国にも生息していたが、絶滅した可能性が高い。県内では主に平野部に生息しており、新城市、豊田市(旧稲武町、旧旭町を除く)、瀬戸市を結ぶ線の西側に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

近縁種のとノサマガエルに比べ、本種は水辺から離れない傾向が強く、一生を通じて低湿地で生活する。繁殖地は主に水田で、浅い池、沼など浅い止水で産卵する。繁殖期は比較的長く、5月から7月に及ぶ。雄の広告音はンゲゲゲゲ・・・と聞こえる。雌は年に2回繁殖できるとされる(芹沢, 1983)が、現在の水田では水入れ時期の晩期化や中干し等の影響で、2回目の繁殖は機能していないようである。

【現在の生息状況／減少の要因】

知多半島を含む尾張地方ではかなり密度が高く、西三河でも矢作川以西には比較的多く見られるが、矢作川以東では局所的にしか分布しない(島田・坂部, 2014; 島田他, 2015)。東三河地域においては渥美半島の一部や新城市作手を除いては、ごく局所的な生息である。

都市近郊における水田の消滅、及び圃場整備事業の進行に伴う水田の乾燥化など、水田環境をめぐる昨今の環境変化が、本種の減少の大きな要因であると考えられる。

【保全上の留意点】

水田の乾田化による生息域の減少に配慮して、池、水路など水辺環境の維持が重要である。

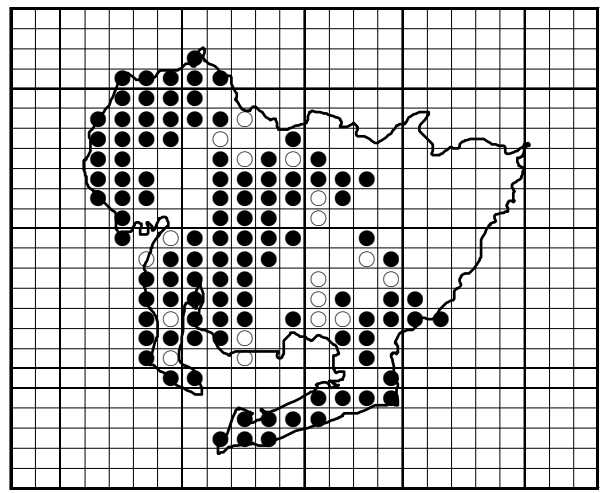
【引用文献】

- 島田知彦・坂部あい, 2014. 西三河平野部の水田におけるツチガエルの分布. 豊橋市自然史博物館研報 24: 7-15.
島田知彦・田上正隆・楠田哲士・藤谷武史・高木雅紀・河合敏雅・堀江真子・堀江俊介・波多野順・廣瀬直人・池谷幸樹・国崎亮・須田暁世・坂部あい, 2015. 濃尾平野に生息する水田棲カエル類の分布状況. 豊橋市自然史博物館研報 25: 1-11.
芹沢孝子, 1983. トノサマガエル—ダルマガエル複合群の繁殖様式 I. 愛知県立田および佐屋における成長と産卵. 爬虫両棲類学雑誌 10: 7-19.



北名古屋市, 2012年6月26日, 島田知彦 撮影

県内分布図



(島田知彦)